

2023年度 小田原社会人連盟 競技規則の変更について(案)

審判委員長 小瀧

「2023バスケットボール競技規則」より、小田原社会人連盟の競技規則を以下の通り、一部変更する。なお、2023年5月14日(日)のリーグ戦より施行するものとする。

① 「試合前のウォーミングアップの場所」について

試合前のウォーミングアップ場所を、自チームのベンチ前のバスケットで行うものとする。また、ハーフタイム中は自チームと反対のベンチ前(相手チームのベンチ前)のバスケットを使用するものとする。

【第9条 ゲーム、クォーター、オーバータイムの開始と終了】

9-4 全てのゲームにおいて、プログラム上で最初に記載されているチーム(ホームチーム)は、スコアラーズテーブルからコートに向かって、スコアラーズテーブルの左側を自チームのチームベンチとし、ゲーム前のウォームアップを自チームのチームベンチの前のハーフコートで行う。

② 「自チームが攻撃するバスケットの方向」について

自チームが攻めるバスケットを、前半は自チームのベンチ前のバスケット、後半は、自チームと反対のベンチ前(相手チームのベンチ前)のバスケットとする。

【第9条 ゲーム、クォーター、オーバータイムの開始と終了】

【補足】前半は自チームのチームベンチの前のバスケットを相手チームのバスケットとして攻撃を行う。

③ 「ジャンプボール後のオルタネイティングポゼッションアローが示す方向」について

最初のオルタネイティングポゼッションは、ジャンプボール後に最初の攻撃権を得られなかったチームに与えられるものとする。

オルタネイティングポゼッション…ゲーム中にジャンプボールシチュエーションになったときに、交互にスローインを行い、ボールをライブにするゲーム再開の方法である。

【第12条 ジャンプボール、オルタネイティングポゼッション】

12-6 ジャンプボールのあと、最初のライブのボールのチームコントロール

を得られなかったチームが、最初のオルタネイティング ポゼッションのスローインの権利を得る。

【補足】最初のライブのボールのチームコントロールは必ずしもコート上である必要はない。

④ 「スローインファウル」について

スローインファウルが宣告されたディフェンスプレーヤーには、アンスポーツマンライクファウルではなく、「パーソナルファウル」が課せられ、ファウルを受けたオフenseプレーヤーには、フリースロー1本のみが与えられる。その後、ゲームはファウルが起きた場所に最も近いアウトオブバウンズから、ファウルを受けたチームのスローインからゲームが再開される。

スローインファウル…第4クォーター及び各オーバータイムで、ゲームクロックが2分あるいは、それ以下を表示している状況で、アウトオブバウンズからのスローインを行うときに、まだボールが審判あるいはスローインを行うプレーヤーの手にある間に、コート上のディフェンスプレーヤーが相手プレーヤーに起こすファウルのことである。

【第34条 パーソナルファウル】

スローインファウルが宣せられた場合：

・ファウルをしたチームがすでにチームファウルのペナルティシチュエーションかどうかにかかわらず、ファウルをされたプレーヤーは フリースローを1本のみ与えられる。ゲームはファウルが起きた場所に最も近いアウトオブバウンズからファウルをされたチームの スローインで再開される。

⑤ 「終了間際にファウルが宣告された場合の、残り時間の取扱い」について

各クォーター及び各オーバータイムの終了間際にシュートファウルが宣告された場合、競技時間内に起きたものとして、審判の判断によって最低でも「0.1秒」ゲームクロックが表示される。

【第8条 競技時間、同点、オーバータイム】

各クォーターやオーバータイムの終了間際にファウルが宣せられた場合、審判は残りの競技時間を決定する。

ゲームクロック には最低でも 0.1 秒（0.1秒の表示ができない場合、1秒）が表示される。

競技規則変更点一覧

従来の競技規則	変更された競技規則
「試合前のウォーミングアップの場所」について	
<p>【試合前】 相手チームのベンチ前でウォーミングアップを行う。</p> <p>【ハーフタイム】 自チームのベンチ前でウォーミングアップを行う。</p>	<p>【試合前】 自チームのベンチ前でウォーミングアップを行う。</p> <p>【ハーフタイム】 相手チームのベンチ前でウォーミングアップを行う。</p>
「自チームが攻撃するバスケットの方向」について	
<p>【前半】 相手チームのベンチ前のバスケットに攻撃する。</p> <p>【後半】 自チームのベンチ前のバスケットに攻撃する。</p>	<p>【前半】 自チームのベンチ前のバスケットに攻撃する。</p> <p>【後半】 相手チームのベンチ前のバスケットに攻撃する。</p>
「ジャンプボール後のオルタネイティングポゼッションアローが示す方向」について	
<p>コート上でライブのボールをコントロールしてからオルタネイティングポゼッションが決定する。この場合、アウトオブバウンズになった場合、スローインではアローの方向を確定することができない。</p>	<p>コート上のライブやアウトオブバウンズに限らず、始めに攻撃権が得られなかったチームにオルタネイティングポゼッションが与えられる。</p>
「スローインファウル」について	
<p>第4クォーター及び、各オーバータイムの残り時間2分以下の場合 「アンスポーツマンライクファウル」が宣告される。</p>	<p>第4クォーター及び、各オーバータイムの残り時間2分以下の場合 「パーソナルファウル」が宣告される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フリースロー1本 ・ファウルを宣告された付近のアウトオブバウンズから、ファウルを受けたチームのスローインでゲームが再開される。
「終了間際にファウルが宣告された場合の、残り時間の取扱い」について	
<p>シューター以外のプレーヤーは、各チームのベンチに戻り、ファウルを受けた選手のみがコートに残りフリースローを放つ。 シュート後、試合もしくはクォーター終了のホイッスルを鳴らす。</p>	<p>シューター以外のプレーヤーもコートに残り、従来のフリースローシチュエーションと同じ動きとなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競技時間内に起きたファウルだと判断された場合、審判の判断で、最低0.1秒（0.1秒の表示ができない場合、1秒）ゲームクロックが表示される。

参考：2023 バスケットボール競技規則 2023年4月1日施行